所報

No. 23
昭和61年11月

広島市教育センター

教師と自己教育力

広島大学教授　溝　上　　泰

この８月、かつて勤めていた尾道北高校の同窓会に招かれた。20年の歳月は生徒の顔と名前を一致させないばかりか、どうしても思い出せない者を生じさせることになった。あの頃私は世界史を教え、ホームルームを受け持っていた。しかし、今振り返ってみて、当時、何を教え、生徒をどう指導したか、ほとんど覚えていない。一人の生徒が私に「"お前はやれば出来る"と先生に言われたことが励みになりました」と語りかけてきた。また、他の女生徒は「世界史の時間にイギリスやフランスの国歌を歌ってもらったことが印象に残っています」と話していた。とはいえ、私の指導が多感な青春の夢を大きく膨らませるだけの起動力になったかどうか、全く自信はない。

あれから、私は長崎大学、文部省、広島大学と遍歴したが、教師の道から離れたわけではない。教員採用試験のため参考書と首っ引きになっている学生を見て、教職への道を選んだ彼らの学問はこれからが本番であり、いままさに始まろうとしているのだと思う。

文豪、夏目漱石の作品の中に「夢十夜」という小品がある。漱石が見た夢物語十編を集めたものだが、その六夜に、鎌倉時代最大の仏師、運慶が仁王像を刻んでいる夢を描いている。それによると、運慶は無造作にノミと槌を使って思うように眉や鼻を彫り上げていく。漱石がそれに感心していると、近くで見ていた他の男が、「あのとおりの眉や鼻が木の中に埋まっているのを、ノミと槌の力で堀り出すまでだ。まるで土の中から石を堀り出すようなものだから決して間違うはずがない」と言った。そこで自分も仁王が彫ってみたくなって、家に帰って試みてみたが、仁王を堀り当てることができなかったという。

この話をなぞらえて教育を考えてみると、運慶が仁王像を刻んでいく技能はまさに自己教育力にたとえることができよう。子供の中に仁王像は必ず隠されている。しかし、それは誰でもが安易に彫り出されるようなものではない。だが、教師は何はともあれ、それぞれの子供にふさわしい仁王像を彫り出さねばならない責任を負っている。その道は険しいが不可能なことではない。教師は絶えず修業に勤め、人間をつくり、教育技能を磨き、教育の本道を究め続けることによってはじめて仁王像を浮き彫りにすることができる。

編集・発行／広島市教育センター　〒732 広島市東区牛田新町一丁目17番１号☎(082)223－3563

自己教育力特集 (1)

なぜ、いま自己教育力か

自己教育力は新しい教育の概念か

ここ数年教育界では、自己教育力という言葉がよく使われるようになった。この言葉は昭和58年11月の中教審の審議経過報告で初めて使われたもので、あまり馴染みのある用語ではない。しかし、自己教育力を「自らが自らを教育し続ける力」と考えるならば、特別新しい教育の概念でもないように思われる。一人ひとりの子供が自分自身で進んで学び、成長し続けていくことを願わない教師はいないはずだからである。このように考えると自己教育力を育てることは、教育の持つ本質的な使命だと言えそうである。では、なぜ、いま自己教育力なのであろうか。

なぜ、いま自己教育力か

今の子供の状況から

先生方からも「今の子供は言われたことはやるが、進んで学ぼうとしない」という声をよく聞く。また、いわゆる「落ちこぼれ」の問題も解消しきれてはいない。さらには、非行や校内暴力、いじめ等の問題行動も後を断たない状況である。これらの問題を生み出す背景には、家庭や地域の教育力低下、過度の受験体制を支える社会的風土、そして物質的に恵まれた豊かな社会などの要因が考えられる。

このような状況の中で、まず学校がやらなければならないことは、子供たちがやる気をもって、生き生きと学習する学校づくりである。自己教育力の育成とは、まさに今の子供の状況を踏まえてのものである。

来たるべき21世紀に備えて

現在の子供たちは、21世紀に生きる人間である。では、21世紀を生きる人間に求められるものは何か。それは、21世紀がどういう社会であるかということと深くかかわっている。来たるべき社会を予測することは難しいが、非常に変化の激しい社会であることは疑う余地のないところである。また、情報が社会を動かす傾向も強まるであろう。さらには、今以上に人々の価値観が多様化し、国際化も進むものと思われる。以上のような社会に生きる人間に、生涯にわたって自らが自らを高め続けていく力が不可欠なことはいうまでもない。自己教育力の育成は、21世紀に向けて重要な教育課題である。

自己教育力とは何か

自己教育力とは文字通り自らが自らを教育し続ける力である。この自己教育力は、具体的には次のような意味内容をもっている。

学習への意欲

学校で、あるいは家庭や地域社会で、新しい事態や課題に直面して、それに生き生きと対応する意欲や関心・態度である。

学習の仕方の習得

何を学ぶかということより、いかに学ぶかが大切である。どうすれば問題を解決できるか、その方法がわかれば、子供たちは意欲的に学習に取り組むであろう。なお、学習の仕方という場合、基礎的・基本的な知識や技能の習得が前提となっている。

生き方の探求

自己を高めると同時に他者を高める、仲間集団を高めるという生き方の探求である。

(「自己教育力」共同研究グループ)

「自己教育力」関係図書紹介

～図書資料室より～

自己教育への教育　梶田叡一著　明治図書
自己教育力育成の手引　河野重男編　明治図書
自己教育力を育てる先生　北尾倫彦著　図書文化
自己教育力を育てる指導の実際
稲川三郎著　黎明書房

自己教育力を育てる学習指導

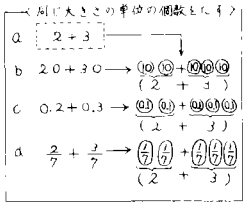
＊「あすも算数がやりたい」子供に

広島市立長束西小学校教諭
尾形完治

今までの授業をふりかえってみると、ひとつひとつについては素材・発問の工夫など力を入れた指導をすすめてきているが、各授業間のつながりという点から考えると十分とはいえない。きのう（過去）の授業をきょうにつなぐことができず、きょうの授業からあす（未来）へつながるものが得られなければ、子供から「あすも算数がやりたい」という声は永久に聞くことはできない。以下「あすも算数がやりたい」子供をめざして、授業の改善をすすめる視点について述べてみたい。

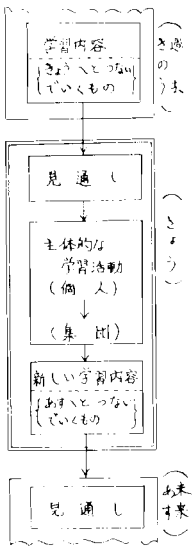
学習内容をつないでいるものをつかむ

右図のようにａ～ｄの学習内容は別個のもののように見えるが、「同じ大きさの単位の個数をたす」という共通の考え方でつながっている。この考え方こそ、きのうの授業をきょうへ、あすへとつないでいくものである。



見通しをうみ出す課題提示の工夫

右図のように既習の内容を新しい学習内容へとつないでいくものを引き出させることによって、子供は授業全体の見通しを立て主体的な活動をすすめることができる。



活動内容のまとめ方の工夫

子供の活動内容を整理し新しい学習内容としてまとめていく際に、きょうの授業をあすの授業へとつないでいくものを印象深くつかみとらせていかなければならない。

「あすも算数がやりたい」という声が教室にあふれる日をめざし、今後もがんばりたい。

＊　主体的に学ぶ生徒の育成

広島市立五日市中学校教諭
藤井俊孝

私たちはこれまで、あまりにも基礎から一歩一歩丁寧に教えようとしすぎたのではないだろうか。基礎・基本はまず教えるものと考えてはいないだろうか。また、質問をして発言を求めているが、一方的に解決過程を説明してしまい、生徒にとって受け身的な授業になってはいないだろうか。

自己教育力を育てるためには、学習への意欲づけとわかったという成就感を持つように指導することが大切である。そのためには、「おやっ？」という問題設定をしてやり、生徒自らがめあてをもって、自ら追求活動をして解決していくという授業をする必要がある。これが「わかる授業」であると考えている。このような問題解決的な学習方法によって、学ぶことの楽しさや達成の喜びを体得し、学習の仕方を習得することができる。どんな教材が適切か、どんな発問が適切かを工夫して、１題材で少くとも１回は基礎的な内容の指導において問題解決的な授業展開を実践していきたいと努めている。

このような指導を実践し目標を達成するために、常に考えていることがある。それは学級の仲間づくりと教師の姿勢である。生徒たちが互いに何でも言い合い、互いに補い合いながらよりよい解決過程を追求していこうとする学級の雰囲気づくりが不可欠である。そのためには試行錯誤の大切さを教え、誤りも認めるなかで是正していく姿勢を私自身が忘れないようにしたい。これらの積み重ねと解放された学級づくりによって、学習集団づくりができ、主体的に学ぶ態度や力が育成できるものと考えている。

Q　おこたえします　A

教育相談室（分室）から

緘黙（かんもく）の状態を示す子供への指導

Q家では普通に話しているのに、学校では決して声を出そうとしません。少しでも話すようにと指導したのですが、全く無関心で困っています。どのように指導したら話すようになるのでしょうか。

A家では普通に話していることから、場面によって緘黙の状態を示す心因性のものと考えられます。

緘黙の状態を示す要因としては、素因的なもの・過保護な親子関係・家族の非社会性・外傷体験などが考えられますが、決定的と言えるものはないようです。

子供が口をきかないことの意味は次のように考えられています。

① 自己表現を閉ざし、周囲からくる不安に対して自分を守る。

② 積極的に活動したり拒否したり逃避することなく目立たないようにしながら受動的に学校生活を受け入れ、微妙にバランスをとっている。

諸要因が複雑に絡みあいながら育つうちにこのような行動様式を身につけてきたと考えられます。ですから、緘黙の状態を示す子供の指導は、ただ単にしゃべれるようにするだけでなく、人格全体に働きかけ、自己改革がはかれる力を育てることをねらわなければなりません。そのために、学級では次のことについての取り組みを進めます。

① なんとかしゃべらせようとする教師は、子供をますます内に閉じこめてしまいます。担任は、まず、子供の心情を認める雰囲気を持つことによって、なごやかな気持ちで接することのできる人間関係をつくりだすことから始めます。

② 口をきかせようとして順番に音読させることは逆効果になることが多いようです。子供にとって表現しやすい学習活動を工夫したり、ノートの書き方・家庭学習のやり方などを認めたり、賞揚するなどして学習への自信をつけていきます。

③ 学級の中で少しずつ自己表現を広げていくには、子供が学級の中で役立っている、大事にされているという気持ちがもてるようにします。そのためには友だち同士が助け合い、認め合い、信頼し合える学級づくりを進めます。

緘黙という行動は、一人ひとりの子供にそれぞれの意味と必要性をもっています。それを理解し認めることから指導が始まります。

（広島市教育センター指導主事　**宮河　治**）

◀プレイルーム

教育相談室（分室）案内

東区光町の広島市児童総合相談センター内にある教育相談室（分室）では、障害をもつ子供たちの教育上の問題についての相談に応じています。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

＊　広島市東区光町二丁目15－35

＊　☎（082）264－0422

教育研究紹介

「おもちゃの兵隊」の鑑賞指導に関する研究

広島市教育センター指導主事　竹　本　建　治

調査Ⅰから

「おもちゃの兵隊」を聴かせての1年生（1,113人）の調査では、好きが88%で、特に男子が好む。また、30%が曲の終結部に興味を持っており、その終結部の曲のイメージから「おもちゃの兵隊はどうなったか」という話づくりをさせてまとめたのが図1である。

図1　おもちゃの兵隊はどうなったか

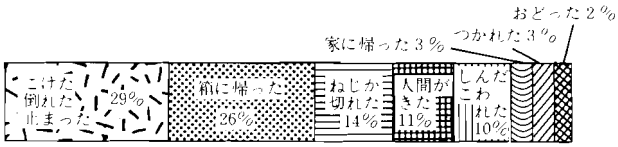


図1の「箱に帰った」の話づくりをした子供は、「おもちゃが箱から出た」という設定で教師が鑑賞をさせている点が特徴である。

調査Ⅱから

音楽に対する感情を具体的動作を通して表現させるために、次の二つの方法で鑑賞させ身体反応の必要性を調査した。

A（247人）	題名を知らせないで、着席のまま静かに曲を聴かせる。
B（222人）	題名を知らせ、曲について話し合い、身体反応を自由にさせながら聴かせる。

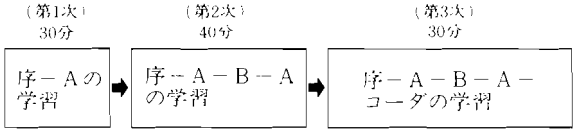
鑑賞後、話づくりをさせてみると、Aでは場所の設定は「城」、登場人物は「王様」「兵隊」「動物」が多く、話の内容では「行進」「踊る」「演奏」がほとんどで、あら筋の発展性はなく、曲の終結部の特徴にも気付いていない。

Bでは、「兵隊」が「行進や演奏」をし、話の内容では「こけた」「おちた」「こわれた」「死んだ」など曲の終結部を意識したあら筋が多く見られた。教師の指導によるものではあるが、身体反応を自由にさせることによって児童のイメージが広がり、曲の特徴をある程度とらえているといえる。

授業実践から

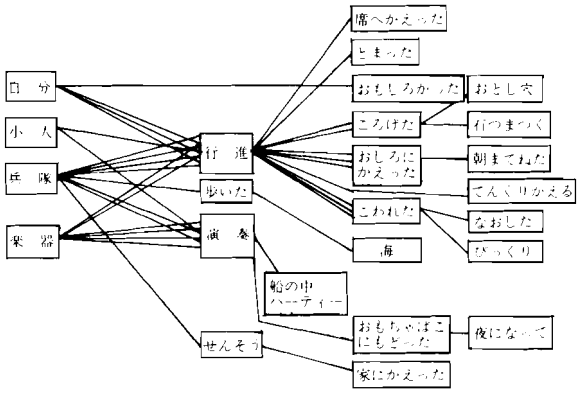
「おもちゃの兵隊」は曲の形式が、序－A－B－A－コーダとはっきりしており、急転直下の終結に特徴がある。この終結部（コーダ）のイメージをできるだけ自由に持って、楽しく鑑賞させる指導をねらいとして授業を行った。

図2　指導計画



第1次はラッパの模擬演奏、旋律唱、班での行進の指導を徹底し、強烈なイメージ付けをはかり、第2次のBはAとの対比として気付かせ自由にイメージさせた。第3次には、初めて聴かせるコーダがより新鮮にイメージするようにした。子供は毎時間新しい旋律に出会い、第1次の学習を常に基本として鑑賞できるので、生き生きとして音楽を体験することができた。鑑賞後の話づくりの内容をまとめたのが図3である。

図3　話づくりの内容（男子17人）



音楽に心を動かされ、楽しく動いている子供の心の中を少しは知ることができたと思う。

広島市教育センター『研究紀要』第6号（昭和61年4月発行）**参照**

教育センターひろば

＊**講師**　放送大学教授
深谷昌志先生

＊**演題**　「情報化社会と教育」

＊**日時**　昭和61年12月4日(木)　14:30～

＊**場所**　広島市青少年センター

＊**対象**　教職員、社会教育関係職員

＊**離任**

～在任中はお世話になりました～

重末久人主任指導主事（神崎小学校教頭へ）

教育センターでは教育研究をすすめるに当たって、次の方々に研究協力員をお願いしています。

昭和61年度研究協力員氏名

研究領域	研究協力員氏名	所属校(園)名
生徒指導	吉岡正彦	本川小学校
	中本健治	竹屋小学校
	平本英二	広島養護学校
	増原珠美	中島小学校
	松岡邦泰	早稲田小学校
	平田和彦	観音中学校
	竹本康明	安佐中学校
	伊藤圭子	仁保中学校
	安井忍	大州中学校
学級経営	渡辺稔彦	安小学校
	広兼明子	美鈴が丘小学校
	中山和一	山田小学校
	仏円弘修	天満小学校
	叶堂秀城	千田小学校
	行広秀美	似島小学校
	河田慎司	鈴張小学校
	竹内章子	落合東小学校
	奥田栄彦	神崎小学校
幼稚園教育	高木浄美	川内幼稚園
	田川千鶴子	北祇園幼稚園
技術・家庭科教育	田中祥通	祇園東中学校
英語科教育	福崎穣司	温品中学校
	立畑薫	己斐中学校

今年度後期は次の方々が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

＊**算数科教育**：有田啓子教諭（神崎小）
研修題目：一人ひとりの問題解決能力を高める指導法の研究

＊**教育相談**：中木啓教諭（五日市東小）
研修題目：遊びを生かした学習活動の研究

＊**国語科教育**：松下和秋教諭（五月が丘中）
研修題目：文法の指導法に関する研究

＊**理科教育**：山口悦朗教諭（亀崎中）
研修題目：理科学習における興味・関心を育てるための教具の工夫

－中期分(7月下旬～8月)研修講座より－

＊**中期分研修参加者数**　延べ**5,629名**

◀幼稚園教育実技講座

▶小学校理科実験講座

編集後記

21世紀に向けて重要な教育課題である自己教育力について特集しました。校内研修等に御活用ください。